

Withコロナ時代の 組合員活動

新型コロナウイルスの感染拡大により、組合員にリアルな参加を呼び掛ける活動の多くが自粛となりました。その後、オンラインに切り替えたり、感染予防を図りながら三密リスクが低い企画から、段階的に再開され始めています。各地の新たな活動の内容や工夫の事例、組合員の声を偶数月に紹介します。

いばらきコープの東部ブロック委員会では、茨城県行方市とのコラボ企画の「組合員活動」さつまいも掘り体験」を例年開催していました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、昨年、今年と中止せざるを得ませんでした。リアルで集えない中でも組合員や行政とのつながりを保ち続けるため、2020年と21年は「行方市産さつまいもプレゼント企画」を実施しました。

表敬訪問が契機となり 「芋掘り体験」が実現

いばらきコープでは、茨城県内に八つのブロック委員会があり、51人のブロック委員が活動しています。東部ブロック*では、2017年から19年にかけて毎年1回、行方市農業振興センターと連携して「さつまいも掘り体験&焼き芋&さつまいも料理」企画を行方市で開催してきました。

この取り組みは、鶴長義二代表理事理事長が鈴木周也行方市長を表敬訪問し、いばらきコープの事業や誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指した活動についての懇談から実現しました。

このイベントの参加者は、行方市農業振興センターの農場で職員の皆さんからアドバイスを受けながらさつまいもの収穫を体験したり、交流を行ったりしていました。参加者から「おいしいさつまいもの産地で、芋掘り体験ができて良かった」などの声が寄せられる好評な企画でした。

20年はさつまいもをプレゼントし 企画を継続

新型コロナウイルスがまん延した20年は、三密を避けるため「さつまいも掘り体験」を中止し、「行方市産さつまいもプレゼント企画」に変更しました。起案の経緯を、行方市経済部ブランド戦略室主任の森作勇哉さんはこう説明します。

「収穫体験ができない中で、いばらきコープさんとのつながりを続けていきたいと思い、別の企画に代替できないかと考え、いばらきコープに提案しました」

応募方法は官製はがきのみ、募集人数は25人、さつまいも愛がより強い人を当選者とするなどの条件を設け、東部ブロックニュース「はろっこ」で募集したところ、98通ものメッセージが届きました。「他県から茨城県に移住して、さつまいものおいしさに驚きました」



左から行方市 経済部ブランド戦略室 主任の森作勇哉さん、いばらきコープ 東部ブロック 組合員理事の横田麻穂子さん、総合企画室 機関運営担当課長の高松敏夫さん。

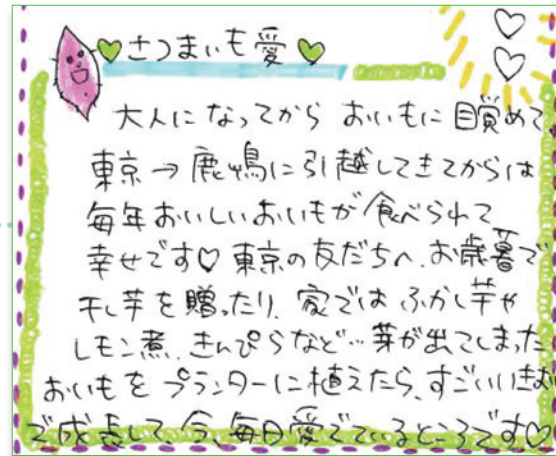
地元の農産物で行政と生協がつながり続ける 「行方市産さつまいもプレゼント企画」

いばらき
コープ

* ほこた なめがた いたこ かしま かみす
銚田、行方、潮来、鹿嶋、神栖地域。



前列左から、いばらきコープ 東部ブロック委員の境りつ子さん、大友艶子さん、池田和江さん、小沼リサさん、2列目左から横田麻穂子さん、福田康恵さん、3列目左から行方市 経済部ブランド戦略室 室長の今泉健作さん、同室 係長の高木崇雄さん、同室 主任の森作勇哉さん、いばらきコープ 総合企画室 機関運営担当課長の高松敏夫さん。



20年に開催した「行方市産さつまいもプレゼント企画」へ応募されたはがき。

コロナ禍での二度目の プレゼント企画で連携を強める

今年はずつまいも掘り体験を再開する予定でした。しかし、9月9日の緊急事態宣言延長の発令に伴い体験会は中止し、昨年同様プレゼント企画に変更。すでに体験会には21家族56人の応募がありました。そこで、行方市の厚意で21家族全員へさつまいもを送ることになりました。

10月6日、6人のブロック委員と3人の市

「さつまいもが大好きでいつも箱買いしています」など、組合員が絵や文字でさつまいもへの思いの丈を表現していました。
東部ブロック 組合員理事の横田麻穂子さんは、「行方市のさつまいもは地域の人びとにとって、メジャーな農産品で日常的に購入しているの、こんなにたくさんのお誘いがあるとは思いませんでした。さまざまな食べ方も知ることができ、勉強になりました」と話します。

「職員で二つの畑に分かれて紅あずまとはるかを掘り、箱詰め作業を実施。各家庭に10kgずつさつまいもを送りました。今後の目標について、森作主任は次のように語ります。」

「行方市産のさつまいもは、過去に農林水産祭の天皇杯を受賞したこともあり、行方市産の野菜の魅力をより広めて、多くの人に愛着を持ってもらいたいです。行方市では消費者交流事業の一環で、地域の企業とのコラボ企画を進めています。いばらきコープさんとは、今後は他の7ブロックの組合員さんとも徐々に一緒に活動できればと思っています」

いばらきコープ 総合企画室 機関運営担当課長の高松敏夫さんは、次のように話してくれました。

「いばらきコープは学校、行政、JAなどさまざまな団体との連携によって地産地消を進める『たべる、たいせつ』食育活動を推進しています。バケツ稲や干し芋づくり、ピーマン収穫などを通じて子どもたちや地域の人びとへ県内産野菜の魅力を伝えていきます。コロナ禍での『さつまいも掘り体験』の中止は、やむを得ませんでした。地域で熱心に活動する組合員がいるので、『さつまいもプレゼント企画』の開催につながったんだと思います。組合員組織の価値や重要性を再認識しました」

(写真 川本聖哉)



各家庭には、段ボール1箱分が届きます。

それぞれの特徴を記載したリーフレットを同封し、熟成期間のお知らせを入れ、梱包します。



紅はるか7kg、紅あずま3kgになるように計量し、行方市が用意した段ボールに手作業で詰めていきます。

